

## JT 生命誌研究館 JT Biohistory Research Hall

高槻に誕生して24年目になります。ここでは、コンサートホールで音楽を楽しむように、誰もが、生きもの研究の成果を楽しめるように表現する「科学のコンサートホール」です。DNAや細胞について工夫を重ねた展示や映像があり、子どもも大人も生命の歴史を楽しめます。「人間も生きものであり、自然の一部である。」ということを感じていただき、一緒に考える場です。



「生命誌絵巻」

JT 生命誌研究館が基本にしているのがこの絵巻です。扇の縁にあるのは現存の生きものたち。バクテリアから人間まで数千万種いると言われています。なんと多様なことでしょう。この多様な生きものはすべてDNAをもつ細胞からできています。38億年前に生まれた細胞が長い時間をかけて進化し多様になってきたのです。これを見ると、人間も他の生きものと同じ自然の一部であること、生きものは全て長い歴史をもつ存在であることなどがわかり日常の暮らし方が変わります。

### 「節人先生と「いのちの響き」を」特別展示のご案内



「科学を演奏する」生命誌研究館の基盤を築かれた初代館長・岡田節人先生のお仕事とお人柄を振り返り、今も研究館に流れる「いのちの響き」を展示としてお伝えします。以下の日程で開催しています。是非、展示ホールにお越しください。

会期：2017年6月6日（火）～8月31日（木）  
場所：生命誌研究館1階展示ホール

## 節人先生と「いのちの響き」を

長岡京室内アンサンブル演奏会



日時：2017年6月3日（土） 15時開演（14時30分開場）  
会場：JT生命誌研究館 展示ホール（全席自由席）

主催：JT 生命誌研究館  
協力：NPO 法人 音楽への道

## < ご挨拶 >

生命誌研究館は1993年の創立より「科学のコンサートホール」として、生きもの研究を美しく楽しく表現して参りました。そこにはいつも、初代館長の岡田節人先生が醸し出す独特の雰囲気がありました。去る1月17日の節人先生の訃報に触れ、当館に流れ続けているこの空気を「いのちの響き」とし、先生にお届けしたいと思いました。

長岡京室内アンサンブルは、欧米を中心に教育・演奏両面で国際的な活躍を続けるヴァイオリニスト森悠子さんを音楽監督とし、国内外から集まった優秀な若手演奏家が、指揮に頼らず互いの「耳」を研ぎ澄ませて行う独自の合奏が魅力です。その音楽性の高さは広く評価されているものです。節人先生をよくご存知の森悠子さんが、生きものが生れ、生れた生きものたちが関わり合いながら生きる姿を描いた「生命誌マンダラ」に共感し、音のいのちを探しましょうと言って下さいました。この音を、ご一緒にお聴きいただけましたらとても幸せです。

多くの方が、ここにしかないと言ってくださる豊かで静かな時間の流れるこの空間をこれからも大切にしていきます。そして、小さな生きものたちから新しく学んだ事柄や生きることの本質について考えたことの表現への挑戦を続けて参ります。よろしく願いいたします。

中村桂子

## < プログラム >

・ご挨拶 中村桂子（JT生命誌研究館館長）

1) H.I. ビーバー／『ロザリオのソナタ集』より XVI. パッサカリア ト短調

石上真由子（Vn.）

2) W.A. モーツァルト／2つのヴァイオリンのための12の二重奏曲op.70-1 より  
第1楽章 Allegro Moderat

森悠子（Vn.）、石上真由子（Vn.）

・トーク 森悠子（長岡京室内アンサンブル）× 中村桂子（JT生命誌研究館）

3) M. ラヴェル／弦楽四重奏曲 へ長調

第1楽章 Allegro moderato

第2楽章 Assez vif. Très rythmé

石上真由子（Vn.）、長瀬大観（Vn.）、野澤匠（Va.）、中島紗理（Vc.）

長岡京室内アンサンブル  
Nagaokakyo-Chamber Ensemble



『地域ごとに独自の音色を持つオーケストラがあるヨーロッパのように、長岡京独自の音色、思想を持った演奏団体を育てたい』という理念の下、1970年代より欧米を中心に教育・演奏両面で国際的に活躍してきたヴァイオリニスト 森悠子を音楽監督として、国内外の各地から優秀な若手演奏家が集まり、1997年3月結成された。指揮に頼らず互いの音を聴く「耳」を究極に研ぎ澄ませた独自のスタイルを特長に、緻密で洗練された技術と凝集力の高さ、独自の様式感覚をもった高度な表現法と音楽性の高さは、日本でも希有な存在と高く評価される。2000年「第20回音楽クリティック・クラブ賞」、01年「エクソンモービル音楽賞・奨励賞」、03年「ABC音楽賞本賞」と「藤堂頭一郎音楽褒賞基金」、2004年長岡京市「文化功労賞」を受賞。09年、10年、15年は東京公演を開催。11年には「東京・春・音楽祭」にも出演した。